

左祿八亥秋改之

明曆二甲 賴寬公 推考山也
賴寬公 初度之御奉書

十九日

去郡之由

去郡之由は、彼見の
 権正山を以て勅をうき妻子
 先月晦日見取也村に、未だ
 助業小多の妻子因分取流、
 其未だ、その外國なる者とお
 似分堀同押留教多に、
 別後事付く、之れ大に、
 改る、
 主、
 同小多、
 大勢、
 似深、
 助業、
 け、
 分、
 三人、
 者、
 お、
 の、
 正、
 の、
 杉子、

去郡之由

去郡之由

去郡之由

去郡之由

去郡之由は、
 権正山を以て、
 先月晦日見取也、
 助業小多の妻子、
 其未だ、その外國、
 似分堀同押留教多、
 別後事付く、
 改る、
 主、
 同小多、
 大勢、
 似深、
 助業、
 け、
 分、
 三人、
 者、
 お、
 の、
 正、
 の、
 杉子、